



資源循環の杜へ



# エコエコ ゴールドマスター 環境配慮事例集



## エコエコゴールドマスターとは

仙台市内の市民団体・事業者団体・仙台市でつくる「仙台市環境配慮事業者認定委員会」では、ごみの減量やリサイクル、CO<sub>2</sub>削減などの環境配慮活動に特に積極的に取り組む事業者を「エコエコゴールドマスター」として認定しています。

本冊子では、「エコエコゴールドマスター」に認定された事業者の取り組みをご紹介します。

認定制度について、詳細は  
仙台市ホームページをご覧ください。

エコエコゴールドマスター



発行 仙台市環境配慮事業者認定委員会(事務局：仙台市環境局廃棄物企画課)

〒980-0802 仙台市青葉区二日町6-12 MSビル二日町3階  
TEL:022-214-8230 FAX:022-214-8840

バックナンバーは、仙台市ごみ減量・リサイクル情報総合サイト「ワケルネット」(<http://www.gomi100.com>)に掲載しています。

令和5年3月発行



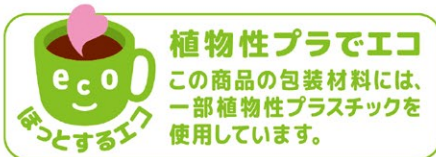
# 味の素AGF株式会社 東北支社

## 1. 企業紹介

当社は、味の素グループのコーヒー・粉末飲料事業の中核会社として、コーポレートスローガンである「いつでも、ふっ。AGF®」を実践し、いつでもどこでもおいしい一杯を提供する「日本発の愛される嗜好飲料メーカー」を目指しています。



「ブレンディ®」  
袋140g



「ちょっと贅沢な珈琲店®」レギュラー・コーヒー  
スペシャル・ブレンド280g



## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●廃棄物のリサイクル100%

製造工程で排出される抽出後のコーヒー粉(コーヒーグラウンズ)の燃料利用や堆肥化をはじめ、工場・オフィス・物流で生じる廃棄物を全量リサイクル。AGFグループで2017年12月にリサイクル率100%を達成し、以降継続しています。

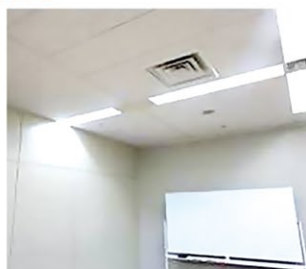


廃棄物の排出量・再資源化の推移

### ●エネルギー使用量の見える化によるCO<sub>2</sub>削減

CO<sub>2</sub>削減のため、営業車のエコカー導入や公共交通機関利用の推進、オフィス内の照明のLED化や間引き等を実施しています。

また、エネルギーの使用量を毎年把握し、削減取組を継続的に実施しています。



オフィス内の照明間引き

### ●小売店様でのPOP掲出によるマイボトル利用の啓発

仙台市の「マイボトルキャンペーン」に参加。当社のパウダー飲料商品をご販売頂いている小売店様7社110店舗にPOPを掲出し、幅広くマイボトル利用を呼びかけています。

また、販売している製品の包装についても、コンパクト化や紙の割合を増やすなど、プラスチック削減の取り組みを行っています。



マイボトルキャンペーンPOP



イベント「エコフェスタ」

## 3. 認定にあたってのメッセージ

「エコにこゴールドマイスター」への認定をいただき、大変嬉しく思います。

認定いただいたことをきっかけとして、今後一層、仙台市様とともに、当社製品や取り組みを通じて、仙台市民の皆様をはじめ多くの方々に環境取組の輪を広げられるよう努めてまいりたいと考えております。



山田 達也 東北支社長



# イケア・ジャパン株式会社 IKEA仙台

## 1. 企業紹介

イケアは「より快適な毎日を、より多くの方々に」というビジョンのもとに、優れたデザインと機能性を兼ね備えた、丈夫でお手ごろでサステナブルなホームファニッシングソリューションを、大きな夢を持つ人々に提供したいと考えています。私たちの関心は世界中にあり、そして人々がよりよい生活を送れるようにと考えています。



店舗写真

## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●環境に配慮した商品開発と顧客への周知

イケア製品の60%以上が再生可能素材から製造されており、10%以上がリサイクル素材を含んでいます。再生可能素材やリサイクル素材のみを使用すること、そして製品や素材の寿命を延ばすための新しいソリューションを提供することが、私たちの目標です。また、店舗内で統一的な緑色のバナーを用いて、その商品がどのような点でサステナブルであるか具体的に明示しています。



店舗内のバナー



Circular Market

### ●商品のリユースを推進するコーナーの設置

一度販売し買い取った家具や展示品をメンテナンスし、リユース品として販売するコーナー「Circular Market」を店舗内に設置しています。家具の修理見学が可能なコーナーなどを設けDIYに関する相談やワークショップの開催なども実施し、サステナブルな暮らしが実現できるよう提案しています。

### ●食品ロス削減とCO<sub>2</sub>排出量の少ないプラントベース食品の販売

レストランや社員食堂に食品廃棄量をモニタリングする機械や、あらかじめ出勤する社員数を把握し社員食堂での調理量を調整するシステムなどを導入し、食品ロス削減の取り組みを行っています。また、地域の子ども食堂へ未利用食品を寄贈しています。さらに、クライメートフットプリント(※1)を低く抑えることができるプラントベース食品の販売を促進しています。



社員食堂での掲示

## 3. 認定にあたってのメッセージ

イケアは、2030年までにクライメートポジティブ(※2)になるという目標を実現するため、サステナビリティへの取り組みを継続して行っていきます。手ごろな価格で資源・エネルギー効率の高い製品に焦点を当て、ベジドッグやプラントボールなどの植物性食品、省エネソリューションなどで、より多くの人々がよりサステナブルな暮らしを実現できるよう道を切り開いていきます。



小田切 大  
マーケットマネジャー

※1 クライメートフットプリント：その製品における原材料の生成や加工から、製造と輸送、顧客による製品の使用、製品が寿命を迎え廃棄・リサイクルに至るまでの、すべての過程における温室効果ガス排出量。

※2 クライメートポジティブ：温室効果ガスを、事業活動での排出量よりも多く削減すること。



# 株式会社鐘崎 本社工場

## 1. 企業紹介

仙台発祥の「笹かまぼこ」を中心とする水産物の加工、水産練り製品の製造・販売を行っております。その他、牛たん事業、すり身の技を活かした惣菜事業を展開しています。「おいしさ 楽しく」という企業理念のもと、豊かな「食」を提供し続けている食文化創造企業を目指しております。



鐘崎本社工場

## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●簡易包装によるごみの削減

贈答用商品を簡易包装化し、商品販売時に基本姿勢として簡易包装を推奨するなどの取り組みを通じて、梱包時の段ボールやプラスチックごみを削減しています。



贈答用商品の包装

### ●食品残渣の飼料化

商品製造時の不良品や店頭販売からの戻り品など、従来は廃棄処分していた食品を飼料化し、リサイクルを推進しています。



食品残渣置き場



魚粉

### ●社員へのプラスチックごみ減量の啓発

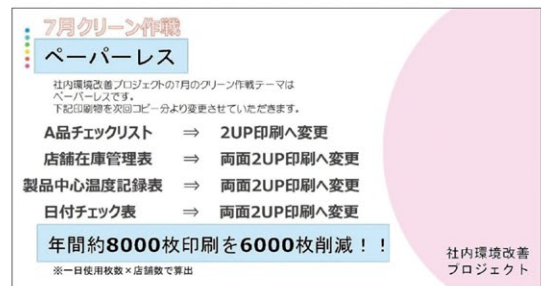
社員を対象に、昼食時の使い捨て弁当箱の利用率を調査するアンケートを行い、プラスチックごみ量を見える化しています。また、繰り返し使える弁当箱での弁当販売を実施し、社内でプラスチックごみの減量を図っています。



社内での周知ポスター

### ●紙類の削減

社内で定例的に使う書類のフォーマットを2UPに統一し、使用方法も見直すことで紙類を削減しています。また、電子メールや社内でのオンライン掲示板の利用を推奨しています。



紙類削減目標

## 3. 認定にあたってのメッセージ

この度、エコにこゴールドマイスターに認定して頂き大変光栄に思っております。課題となっている環境問題に対して、従業員一人一人が何ができるかを考え行動できた結果だと思っております。今後も食品ロスや事業ごみの削減、リサイクル推進に努めながら、お客様に商品が届いたその先を考え、これまで以上に積極的に取り組んで参ります。



本城 慶 工場長



# 株式会社フォーバル 東北支社

## 1. 企業紹介

当社は、「情報通信」「海外」「環境」「人材・教育」「起業・事業承継」の5分野に特化し「売上拡大」「業務効率改善」「リスク回避」の3つの利益に貢献する実践型のコンサルティング活動を行い、中小規模事業者を伴走型で支援している企業です。



東北支社入口

## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●オフィスでの紙類削減やリサイクル

電子契約書ツールの開発・活用により紙類を削減しています。また、コピー機の使用状況を支社ごと、個人ごとに記録し、書類の発生を極力抑え、発生した不要コピー紙は専門業者(PELP!)へ送付し再生紙にリサイクルしています。



紙のアップサイクル(※3)(PELP!)

### ●資格取得の推奨による社員教育

環境社会検定(eco検定)の受験を組織で推奨し、東北支社社員が合格を目指すことによって、環境問題への理解を深め取り組みを啓蒙しています。

●社員の資格に関する知識習得と意識向上 ～「環境社会検定(eco検定)」の導入～

フォーバルグループでは、社員一人ひとりに対して知識の習得が重要と見做すべく環境社会検定(eco検定)の導入を推進してまいりました。その結果、環境社会検定(eco検定)の合格者数は、2020年より2022年まで増加傾向にあり、2022年には、環境社会検定(eco検定)の合格者数は、2020年より2.1倍に増加しました。

また、2022年度は、環境社会検定(eco検定)の合格者数を、2020年より2.1倍に増加しました。また、2022年度は、環境社会検定(eco検定)の合格者数を、2020年より2.1倍に増加しました。

また、2022年度は、環境社会検定(eco検定)の合格者数を、2020年より2.1倍に増加しました。

| 会社名                | 従業員数 | 参加人数 | 合格率   |
|--------------------|------|------|-------|
| 株式会社フォーバル          | 684  | 309  | 53.9% |
| ピーシーコミュニケーションズ株式会社 | 27   | 13   | 48.1% |
| 株式会社グレース・マネジメント    | 70   | 27   | 38.6% |
| 株式会社フォーバルテクノロジー    | 154  | 11   | 7.1%  |

※環境社会検定 eco検定 ①  
環境社会検定(eco検定)とは、環境問題に関する知識を習得し、環境問題に対する意識を高めることを目的とした検定です。環境社会検定(eco検定)の合格者数は、2020年より2.1倍に増加しました。

ESGレポート eco検定

### ●仙台市フードドライブへの寄付

食品ロスの削減のため、フォーバル社員の自宅にある余った食品を収集し、仙台市役所にてフードドライブに寄付を行いました。



仙台市フードドライブ

### ●テレマティクス活用による社用車のエネルギー使用量削減

社用車6台について、使用状況や急発進・急ブレーキ等の運転状況を「見える化」することにより、社用車の使用回数の低減やエコドライブを促進し、エネルギーの使用を削減しています。

| ドライバー | 走行情報         |              |                |            |              |            | CO2 削減率<br>(%) | CO2 削減量<br>(kg) | CO2 削減率<br>(%) | CO2 削減率<br>(%) |
|-------|--------------|--------------|----------------|------------|--------------|------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
|       | 走行距離<br>(km) | 燃費<br>(km/l) | 平均速度<br>(km/h) | 急発進<br>(回) | 急ブレーキ<br>(回) | 急減速<br>(回) |                |                 |                |                |
|       | 55.51        | 95.49        | 41             | 9.83       | 0.00         | 0.00       | 0.00           | 0.00            | 0.00           | 28.45          |
|       | 63.94        | 98.11        | 45             | 7.80       | 0.00         | 0.00       | 0.00           | 0.00            | 0.00           | 30.85          |
|       | 95.12        | 95.25        | 54             | 15.25      | 0.00         | 0.00       | 0.00           | 0.00            | 0.00           | 58.71          |
|       | 30.98        | 93.36        | 14             | 8.00       | 0.00         | 0.00       | 0.00           | 0.00            | 0.00           | 22.52          |
|       | 63.92        | 93.44        | 59             | 17.05      | 0.00         | 0.00       | 0.00           | 0.00            | 0.00           | 34.82          |
|       | 17.46        | 91.49        | 29             | 9.57       | 0.00         | 0.00       | 0.00           | 0.00            | 0.00           | 39.84          |

テレマティクスの活用

## 3. 認定にあたってのメッセージ

今回の「エコにこゴールドマイスター」認定を受けるにあたり、まずはフォーバルが率先して環境に対する取り組みを行い、各々のメンバーがその喜びを分かちました。これからは今回の取り組み内容をもとに、伴走型支援を行っている中小企業のGX(グリーントランスフォーメーション)(※4)化を推進していきます。

※3 アップサイクル：捨てられてしまうはずの製品に手を加え、付加価値のある別の製品として生まれ変わらせること。

※4 GX(グリーントランスフォーメーション)：化石燃料から再生可能エネルギーの利用に切り替えるなどの手段を用いて産業構造を変革し、温室効果ガスの排出削減と産業競争力向上の両立を目指すこと。



松下 伸一 東北支社長(右)  
第一アイコン課 高林 祐河氏(左)



# 株式会社宮城衛生環境公社

## 1. 企業紹介

当社は、「明るい衛生環境づくり」を企業理念に掲げ、仙台市内の家庭ごみや事業ごみ等の収集運搬の他、し尿処理、浄化槽・上下水道施設等の清掃維持管理等を行っています。2018年から脱炭素経営を成長戦略とし、太陽光発電設備の導入など再エネへの取り組みを現在も推進しています。



ごみ収集車

## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●再生可能エネルギー100%達成

自家消費型太陽光発電設備を導入するとともに、2020年度にはJ-クレジット(※5)を活用し、再生可能エネルギー100%を実現しました。また、照明のLED化や営業車のHV、PHV車などの導入により、エネルギーの使用量を削減しています。またSBT(※6)認定登録を行い、温室効果ガス排出削減に向けて意欲的に取り組んでいます。



本社敷地内の太陽光パネル



プラグインハイブリッド車を導入

### ●エコドライブ教育の充実とタブレット端末導入による運転効率化のアップ

廃棄物の収集・運搬業務で使用するトラックのメーカーの協力でエコドライブセミナーを開催し、社員がエコドライブの技術を習得する機会を作っています。また、収集運搬の最適化を図りながら、運転手の負担軽減のため集積所をプロットしたタブレット端末を導入し効率化に努めています。



タブレット端末で  
収集運搬業務を最適化



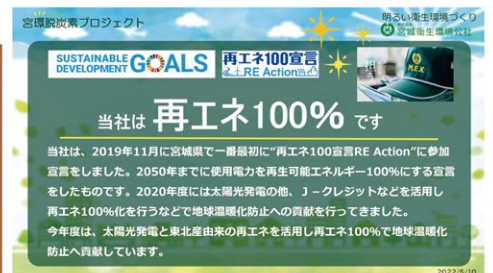
エコドライブ研修

### ●環境配慮やSDGsに関する社員への意識啓発

社員が事務所で常に目に触れる社内のモニター等を活用し、ごみ減量・リサイクルをはじめとする、環境配慮やSDGsに関する情報を発信しています。現在は、自発的にグリーン購入対象商品の事務用品類を選択し購入するなど、社員の環境意識の醸成に繋がっています。



社内での掲示例



## 3. 認定にあたってのメッセージ

現在の社会環境は今までの「廃棄」の考えから「循環型の街づくり」の考えへとシフトしてきています。「エコにこゴールドマイスター」の制度により、3Rを含め環境に配慮した行動とサーキュラーエコノミー(※7)に繋がる環境にやさしい事業者として認定を頂いたこととなります。認定を始まりと考え、これからも環境に配慮した企業として推進してまいります。

※5 J-クレジット：国が温室効果ガス削減量を「クレジット」として認証する制度。削減した事業者はクレジットを売却でき、他の事業者がそのクレジットを購入することにより温室効果ガス削減を行ったものとして認めることができる。

※6 SBT (Science Based Targets)：パリ協定と整合した、事業者が設定する温室効果ガス削減目標。

※7 サーキュラーエコノミー(循環型経済)：資源の消費・廃棄量を抑え、資源を有効活用しながら付加価値を生み出す経済活動。



砂金 英輝 代表取締役



# 宮城交通株式会社

## 1. 企業紹介

当社は、宮城県に根付きながら、県内外の様々な場所、地域、大切なお客様、たくさんの思いをバスで繋ぐ事業を展開しています。当社では「交通を核とした価値あるサービスの創造」をテーマとした中期経営計画(令和3年度～令和5年度)がスタートしており、目指すべき姿に向かって現在様々な取り組みを行っています。なかでも「環境にやさしい会社」は重要な位置付けの一つとしており、環境に配慮した行動、取り組みについて積極的に推進をしています。



宮城交通バス車両

## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●燃料電池バスの導入や省エネの取り組み

宮城県様や富谷市様と協力して、水素で走る燃料電池バスを1台導入しました。水素で走るため、走行時にCO<sub>2</sub>を排出しません。また、各営業所の電力使用量やバスの燃料使用量を把握し、削減目標を設定したり、エコドライブやオフィス内の省エネ対策などに取り組んでいます。



燃料電池バス



省エネの取り組み



給与明細



勤怠管理

### ●給与明細書や勤怠管理表のペーパーレス化

給与明細書はPDFファイルに、勤怠管理表は電子の社員証とパソコンでのログイン形式に変更することにより、紙類を大幅に削減しました。今後は他の帳票類などの電子化にも取り組み、さらにペーパーレス化を推進していきます。

### ●社員が環境配慮活動に取り組む機会の創出

社員が環境配慮活動に積極的に取り組む企業風土を作るため、泉中央や仙台市中心部におけるボランティア清掃活動や、オフィス内でのフードドライブの実施など、定期的に機会を創出しています。



清掃活動



清掃活動



フードドライブ

## 3. 認定にあたってのメッセージ

弊社の取り組みが「エコにこゴールドマイスター」という形で認定されましたこと、大変嬉しく感じております。今後も電気バスの導入など、カーボンニュートラル(※8)の実現に向けたハード面の更新に加え、ボランティア清掃活動やフードドライブなどの取り組みを通して従業員の意識向上を図り、環境にやさしい会社を目指してまいります。



社長室 小川 晃由課長

※8 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量がプラスマイナスゼロになること。



# 株式会社楽天野球団 東北楽天ゴールデンイーグルス

## 1. 企業紹介

私たちは、野球を通じて夢と感動を届けることや、東北のチームとして地域を熱くできる存在であることをミッションにプロ野球チーム「東北楽天ゴールデンイーグルス」の運営、ほか関連事業を主軸としております。

私たちが考えるサステナビリティ=持続可能な未来とは、世界中の人々が夢を持って幸せに生きられる社会が何世代にもわたって続いていくことです。野球を通じて、環境・社会・地域の3つのテーマを軸に、社会課題解決に取り組んでまいります。



独自の「サステナブル・スタジアム」に関する宣言

## 2. 主な環境配慮の取り組み

### ●ビールカップ、ストロー、スプーン、フォークエコ素材使用

楽天モバイルパーク宮城では、飲食売店で提供するビールやストロー、スプーン・フォークに環境対応素材を配合しています。

ビールカップは素材の50%をリサイクルペット使用、ストローはバイオマス25%配合仕様、スプーン・フォークはコーヒバイオマス10%配合仕様のものへ切り替え、プラスチック使用量の削減を目指します。 ※一部商品除く



ビールカップ



スプーン・フォーク



エコステーション



環境配慮型ごみ袋

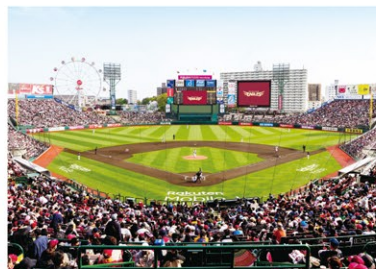
### ●ごみの分別/ボランティアによるエコステーションの運営

2005年に球界として当時初めてとなる「エコステーション」を設置。現在、7か所あるエコステーションをボランティアスタッフが主体的に運営し、来場者へごみの分別を呼びかけています。これにより、紙資源やプラカップ、割り箸等のリサイクルや、ごみ焼却効率の向上によるCO<sub>2</sub>削減が促進されます。

### ●再生可能エネルギー電気購入

2022年4月1日より、事業活動で使用している電力は100%再生可能エネルギー由来の電力を使用しています。

これにより電力使用によって排出されるすべてのCO<sub>2</sub>が削減され、またCO<sub>2</sub>総排出量は2021年の実績値と比較して年間で約2,600t、約90%分が削減される見通しです。



スタジアム内観



再生可能エネルギー電気購入(水力)  
八久和発電所(提供:東北電力株式会社)

## 3. 認定にあたってのメッセージ

公共性の高いプロ野球チームの運営に携わる企業として、私たちは拠点を置くこの東北への地域貢献を重視しています。スポーツは、人々に感動と喜びを届けるだけでなく、あらゆる垣根を越えて人々をつなぎ、地域を発展させる大きな力を持っています。それは持続可能な社会づくりにおいても通じることです。私たちが地域を思い、地域と同じ視点を持って様々な社会課題解決に取り組むことや、サステナブルなアイデアが詰まったスタジアムへ足を運んでいただくことを通じて、多くの人々がサステナビリティについての新たな気付きを得るきっかけにつながれば大変うれしく思います。



スタジアム部 山縣 大介部長